

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

| | |
|---------|-----------------|
| 上位の施策名称 | 施策Ⅱ-5-5 居住環境づくり |
|---------|-----------------|

1. 事務事業の目的・概要

| | | | |
|----------|--------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 漁港漁場整備課長 角 敬 | 電話番号 | 0852-22-5316 |
|----------|--------------|------|--------------|

| | | | |
|---------|--|--------------------|--|
| 事務事業の名称 | 漁村環境整備事業 | | |
| 目的 | (1) 対象 | 漁村集落の住民と漁港・漁村への来訪者 | |
| | (2) 意図 | 漁村の生活環境を快適かつ安全にする。 | |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・漁港及び漁場の水域環境と漁業集落の生活環境の改善を図るために雨水、汚水の排水に必要な集落排水処理施設を整備 ・漁業活動、漁港の利用の増進及び防災安全の確保を図るために集落道、防災安全施設等の整備 上記整備は農山漁村地域整備交付金を活用して市町村が事業主体となって行うため、県は交付金の交付、事業計画から事業完了までの審査業務を通じて指導監督を行う。 | | |

2. 成果参考指標

| (1) 成果参考指標 | 指標名 | 漁村環境の整備地区数 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
|------------|-----------|------------|------|------|--------|------|------|------|------|
| | | | 目標値 | | 0.00 | 1.00 | 0.00 | 0.00 | |
| 式・定義 | 各年度の整備地区数 | 実績値 | 2.00 | 1.00 | 1.00 | 0.00 | | | |
| | | 達成率 | | 0.00 | 100.00 | | | % | |
| 指標名 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 | | |
| | | | | | | | | 目標値 | 0.00 |
| 式・定義 | 実績値 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | | |
| | 達成率 | | 0.00 | 0.00 | | | % | | |

3. 事業費

| | 26年度実績 | 27年度計画 |
|-------------|---------|--------|
| 事業費(b) (千円) | 100,985 | 63,725 |
| うち一般財源 (千円) | 543 | 612 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・島根県のH25年度末汚水処理人口普及率は76.2%であり、全国平均の88.9%と比べて遅れている。県西部においては44.3%とさらに遅れている。 ・島根県の汚水処理人口普及率のうち本事業のシェアは2.3%であるが、本事業の汚水処理人口普及率は92.3%となっており、ほぼ整備が完了した状況である。 ・地区数でみると、「島根県生活排水処理ビジョン（第4次構想）」に掲げている計画地区数は55地区であり、この内52地区が完了している。 ・多くの排水処理施設が供用を開始しており古い施設はS55年から供用している。このため、老朽化が著しく20年経過する処理施設が、H26年度時点で10箇所、10年後には34箇所となり、施設の老朽化対策が今後の課題となる。 |
|--|

6. 成果があったこと（改善されたこと）

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度は、市町において集落排水施設を整備した地区はなかったが、1地区で集落道、防災安全施設の整備を行い、利便性の向上及び防災安全の確保を行うことが出来た。 ・集落排水施設整備未着手3地区の内、1地区で地域の状況を再調査し、実態に合った効率的な整備を推進するために、整備手法を本事業を利用した集合処理方式から他事業で行う個別処理方式へ見直しをされた。 |
|--|

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

| |
|--|
| ①困っている「状況」 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの排水処理施設が供用を開始しており古い施設はS55年から供用している。このため、老朽化が著しく20年経過する処理施設が、H26年度時点で10箇所、10年後には34箇所となり、施設の老朽化対策が今後の課題となる。 |
| ②困っている状況が発生している「原因」 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村において、稼働している排水処理施設の箇所が増えてきたため、施設の補修費が増大してきた。 ・また、稼働の年数が長くなり老朽化も著しいことから大規模補修の必要が生じている。 |
| ③原因を解消するための「課題」 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村において、集落排水施設の長寿命化計画の策定を進める必要がある。 ・長寿命化計画を策定する事により、更新コストの平準化につながる。 |

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・現有施設の状況を把握するため機能診断を行い、診断結果を基に施設の長寿命化計画を策定するよう、施設の管理主体である市町村を指導する。 ・長寿命化計画策定に向け、手法や他県の事例など情報提供を随時行う。 ・長寿命化対策に必要な予算を国に対して要望していく。 |
|---|

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

| |
|--|
| |
|--|